【実施区域・面積】

千葉県、　1.7ha

【生態系タイプ】

創出緑地



【実施区域の状況】

船橋大神宮で知られる意富比（おおい・おおひ）神社は鎮座1900年の歴史を持つ船橋地方で最も古い神社である。船橋市域に関する文献として最古のものである平安中期の日本三代実録の記事に下総国意富比神と記されていた。明治時代に戊辰戦争の影響で一度消失して以来、明治6年に本殿、大正12年、昭和38年、昭和50年、昭和60年に拝殿・末社・鳥居・玉垣・参道が再建立されてきた。

明治時代に戊辰戦争で境内の植生は焼失したが、これ以後、境内管理としての人為的介入を最低限にとどめた植栽管理を行っている状態となっており、現在は明治期よりの植生を残している。これらは、市街化区域内で周辺は商業施設及び住宅用地等に開発された中、貴重な都市内緑地として宗教施設及び地域のレクリエーション活動の場として運営されている。

【目標】

意富比神社は鎮座1900年の歴史を持つ古い神社であり、明治時代以降の社叢（しゃそう）としての生態系を維持する。この生態系が供給する生物多様性の価値（文化的価値、貴重な動植物種の生息生育の場としての価値を含む）を維持する。さらに、この資源を生物多様性の普及啓発、伝統行事の継承に活用していく。





【主な活動内容】

船橋大神宮の動植物種を網羅的に調査し、生物多様性の価値とそれに対する脅威を明らかにしたうえで、生態系の維持保全を目的とする。東邦大学　生命圏フューチャー・センター「船橋大神宮生態調査プロジェクト」は希少種の保全方法及び生態系の維持管理について生態学に基づく知見を提供し、参拝者に向けての啓発資料の作成を行う。

【モニタリング計画】

植物、鳥類、昆虫に分類し、モニタリングを実施する。その他生物に関しては、調査時随時モニタリングを行う予定である。また境内に池が存在するため、水質の調査も行う。

意富比神社内全体

鳥類：ラインセンサス、ポイントセンサス　植物：ラインセンサス

昆虫：ベイトトラップ、スウィーピング　水質(境内)：COD調査

【実施体制】

5年に1回程度、三季（春、夏、秋）に大学側が調査を行う。管理者が常駐しているため、定期的に管理が行われており、気になる変化が確認された場合別途調査を行う。また、活動責任者の拠点である東邦大学生命圏フューチャー・センターを有する学校法人東邦大学は、統治責任者である意富比神社との間で、意富比神社が実施する自然共生サイトの管理とモニタリングの支援に関する覚書を締結している。

【計画期間】

令和７年９月～令和12年８月